

タイラギは5期連続の休漁か！？

タイラギ漁は今年も絶望的！
5期連続の休漁か？

【佐賀新聞・2016年11月1日】
タイラギ55カ所での1個 有明海
生息調査5季ぶり漁に暗雲

佐賀県有明水産振興センターは31日、有明海の広域で行った高級二枚貝タイラギの生息調査結果を公表し、55カ所の定点観測で漁獲対象となる成貝はわずか1個だった。昨年調査で稚貝が多く発見された海域でナルトビエイの被害が数多く確認されており、5季ぶりの漁再開の見通しに暗雲が立ちこめた。

調査は10月11～26日の期間の6日間実施した。1地点当たり100平方メートルで採取し、成貝は鹿島市沿岸の1地点にとどまった。稚貝は55点中21地点で確認されたものの、1地点36個が最高だった。

1～2月の調査では、大牟田沖で1平方メートル14個の成貝が発見された地点もあったが、5～6月の調査でナルトビエイの被害を確認した。9月下旬から10月下旬にかけて一気に数が減った。

調査結果は、藤津郡太良町の県有明海漁協大浦支所であった県潜水器業者会との会合で報告された。竹島好

道会長は「漁再開に期待を寄せていたが、調査結果は残念で、受け止め難いものがある。独自調査で少しなともいい兆しがあれば」と表情を曇らせた。同会は24日に独自の潜水調査を行い、漁の可否を判断する。

不安定なクラゲ漁ではダメ！
やはり海の再生が必要不可欠！

【西日本新聞 2016年8月17日】

佐賀県／中国景気失速で取引価格が急落 有明海の収入源 ビゼンクラゲ 漁師不安、食材の需要減

有明海漁業の救世主的存在だったビゼンクラゲの取引価格が大幅に下落している。中国で高級食材として需要があり、輸血量が増えて高値を付けていたが、中国経済の失速で需要が落ち込んだとみられる。

有明海では取れなくなったタイラギなどに代わる貴重な収入源で、県内の漁業者から心配する声が出ている。

ビゼンクラゲは傘の直径50～70センチで、大物は重さ約30キロ。昔は引っ掛かると漁網が破れる厄介者とされていた

が、ここ10年は中華料理の前菜や酢の物の食材として、国内外の業者による取引が活発化。乱獲を防ぐため、福岡、佐賀両県の有明海区漁業調整委員会は昨年、7～10月だけ漁を解禁する規制を始めた。

ところが、県有明海漁協大浦支所によると、今年の取引額は1キロ230円前後で低迷。14年の500円、15年の350円と比べ半値近くになっている。今夏の水揚げ量は昨年と同水準でだぶついているわけではなく、クラゲ専門商社くら研（神奈川県茅ヶ崎市）の福田金男社長は「中国の景気失速が原因。ぜいたく品の消費は落ち込み、安物を求める傾向が価格を押し下げている」とみる。

ノリ養殖も営む太良町の漁業渋谷浩之さん（45）は「クラゲ漁は重くて肉体的にきつい、不作気味のノリ養殖を補う大切な仕事。このまま低価格が続けば、燃料費も割に合わなくなる」と気をもむ。

調整池からの排水で赤潮頻発！
大量排水によるノリ養殖にも被害

【佐賀新聞・2016年9月22日】

佐賀県有明海漁業協同組合は21日、ノリ漁期を前に、諫早湾の干拓調整池の排水に関する5項目の要望書を山口祥義知事に提出した。一括排水による赤潮発生など



を危惧し、こまめな排水を国や山本有二農相、長崎県に働き掛けるよう求めた。農業用水を供給する2600ヘクタールの調整池は、一定水位を保つため、大雨や川から流入してたまった水を有明海に排水している。九州農政局によると、昨年度の総量は4億5257万トン。

要望書では南北にある排水門から同時期、同量で分散して排水するよう求めている。潮受け堤防中央部の1日10万トン排出するポンプの能力増強や調整池内の水質浄化を図ることも要請している。この日は竹下元一副組合長らが県庁を訪れ、「排水しないといけなのは分かるが、1度に200万、300万トン出すのではなく、分けてほしい」「赤潮が一番の問題。ノリは味も形も一回落ちたら戻りきらん」と訴えた。山口知事は「大量排水はやめてくれと言ってきた。力いっぱい、やれることは全部やっていく」と応じた。